

南米[ブラジル]



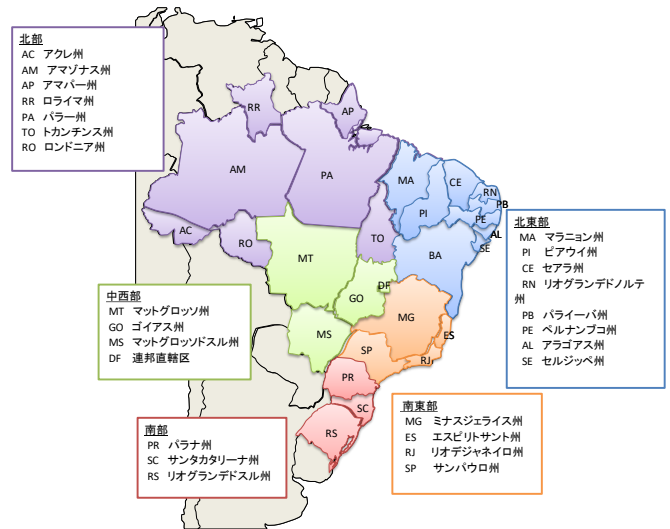
1 農・畜産業の概況

ブラジル政府の農牧センサス(2017年)によると、農業経営体507万戸の所有面積は3億5030万ヘクタールで、このうち農耕地が6340万ヘクタール、牧草地が1億5860万ヘクタールとなる(図1、表1)。ブラジル国家食糧供給公社(CONAB)によると、2017/18年度(10月~翌9月)には、6172万ヘクタールが穀物生産に向けられ、生産量は2億2768万トン(前年度比4.2%減)となった。

畜産分野では、2018年の牛肉および鶏肉生産量とともに米国に次ぐ世界第2位となった。また、豚肉生産量は中国、EU、米国に次ぐ第4位となった。輸出量は牛肉、鶏肉が第1位、豚肉が、米国、カナダに次ぐ第4位となった。

2018年の農産物(農畜産物、林産物および水産物)輸出額は、1017億米ドル(前年比5.9%増)となった。また、同年の農産物輸入額を差し引いた農産物の貿易黒字は877億米ドルとなり、農業部門が国の貿易収支に重要な役割を果たしている。

図1 ブラジルの行政区分



資料：ブラジル地理統計院(IBGE)のデータを基に機構作成

表1 農場面積と農場数の推移

(単位：千戸、千ha)

	1975	1980	1985	1996	2006	2017
農場数	4,993	5,160	5,802	4,860	5,176	5,072
農場面積	323,896	364,854	374,925	353,611	333,680	350,253

資料：ブラジル地理統計院(IBGE)

2 畜産の動向

(1) 肉牛・牛肉産業

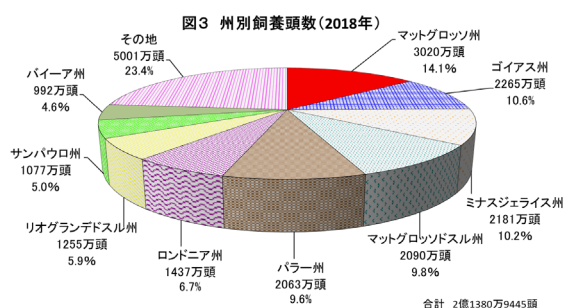
ブラジルの肉牛生産は、広大な牧草地を利用した放牧が中心で、耐暑性に優れたゼブー系ネローレ種が主に飼養されている。近年は、穀物生産が増加し、放牧面積が減少傾向にあることから、仕上げ期に穀物を給与するフィードロットによる飼養管理も拡大している。

また、ブラジルでは、長年、口蹄疫対策に取り組んだ結果、2007年に、南部のサンタカタリーナ州が、国際獣疫事務局(OIE)より同国初のワクチン非接種清

浄地域のステータスを取得した。その他の地域は、ワクチン接種清浄地域となっている(2020年10月現在)。ブラジル農牧食糧供給省(MAPA)によると、将来的には、2023年までに、ブラジル全土で口蹄疫ワクチン非接種清浄地域を目指すとしている。また、BSEについては、2012年、2014年および2019年に高齢牛のBSE(非定形)が確認されたものの、2020年10月時点ではOIEより「無視できるリスク」と評価されている。

① 飼養動向

ブラジル地理統計院（IBGE）によると、2018年の牛飼養頭数は、2億1381万頭（前年比0.6%減）となった（図2）。州別に見ると、前年に引き続きマットグロッソ州が最も多く、次いでゴイアス州、ミナスジェライス州、マットグロッソドスル州、パラ州と続いた。従来は、大消費地を含む南東部を中心に飼養されていたが、需要の高まりを受け、地価が安く広大な中西部での飼養が拡大している（図3）。



② 牛肉の需給動向

ア 生産

米国農務省（USDA）によると、ブラジルの2018年の牛と畜頭数は3964万頭（前年比2.3%増）、牛肉生産量は990万トン（同3.7%増、枝肉重量ベース）となった。ブラジルのキャトルサイクルは、約7年周期で増減を繰り返すとされているが、2016年に底を打ち2017年以降は増加局面となった。加えて、国内経済の回復により牛肉需要が増加したことや海外からの需要が強いことも要因の一つとされている。



写真1 ゴイアス州の放牧風景（2014年9月撮影）

イ 輸出

ブラジル開発商工省貿易局（SECEX）によると、2018年の牛肉輸出量（製品重量ベース）は、135万3540トン（前年比12.2%増）となった（表2）。

これは、アジアや中東などの旺盛な需要によるものであり、特に2012年のBSE（非定型）確認以降停止していた中国向けは、2015年6月の輸出再開以降、著しい伸びを見せており、2018年の同国向け輸出量は前年比62.6%増の32万2295トンと香港を抜いて第1位となった。中国と香港を合わせた輸出量は、全体の44.3%を占める。このほかエジプト、チリ向けも増加した。一方、主要な輸出国であったロシア向けは、同国向け牛肉から使用を禁止されている成長促進剤のラクトパミンが検出された問題で、2017年12月から2018年10月まで輸出停止となったことから、大幅に減少した。

表2 国別冷蔵・冷凍牛肉輸出

区分	2018年			前年同期比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量 (%)	輸出額 (%)	単価 (%)
中国	322,295	1,486,828	4,613	52.6	60.0	4.9
香港	277,114	1,060,364	3,826	12.1	3.8	▲7.4
エジプト	171,336	509,516	2,974	16.6	▲1.8	▲15.8
チリ	114,694	466,114	4,064	78.2	66.8	▲6.4
イラン	81,866	318,491	3,890	▲38.5	▲43.1	▲7.4
サウジアラビア	41,906	154,319	3,683	1.5	▲6.9	▲8.3
アラブ首長国連邦	37,587	146,528	3,898	82.3	62.8	▲10.7
その他	306,742	1,313,629	4,283	▲10.2	▲12.7	▲2.8
合計	1,353,540	5,455,789	4,031	12.2	7.6	▲4.1

資料: SECEX

注: HSコード0201(冷蔵牛肉)、0202(冷凍牛肉)の合計。

ウ 消費

USDAによると、2018年の牛肉の国内消費量は、787万トン（前年比1.5%増）となった（表3）。消費量は、国内経済が回復したことから、前年をわずかに上回った。

表3 牛肉需給の推移
(単位:千トン、kg)

	2014	2015	2016	2017	2018
生産量	9,723	9,425	9,284	9,550	9,900
輸入量	82	61	66	56	48
消費量	7,896	7,781	7,652	7,750	7,865
輸出量	1,909	1,705	1,698	1,856	2,083

資料:USDA

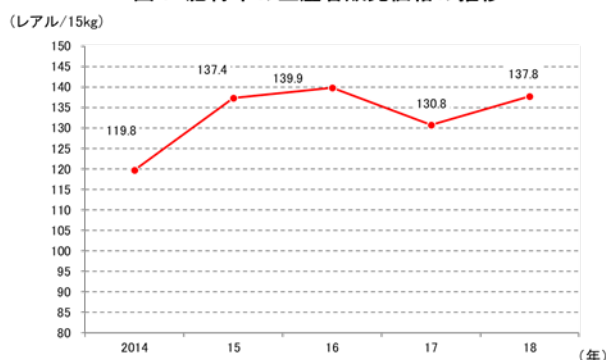
注 1: 枝肉重量ベース。

2: 出典が異なるため、表2と数値は異なる。

③ 牛肉の価格動向

ブラジルでは、牛の生産者販売価格は生体15キログラム（1アローバ）単位で示される。2018年の肥育牛の平均価格（マットグロッソドスル州カンポグランジ市場）は、1アローバ（15キログラム）当たり137.8リアル（前年比5.3%高）であった（図4）。牛肉小売価格（ランプ）は、1キログラム当たり28.0リアル（同0.2%高）となった。

図4 肥育牛の生産者販売価格の推移



資料:CONAB

(2) 養鶏・鶏肉産業

ブラジルの養鶏・鶏肉生産は穀物生産が盛んな南部や中西部で主に行われており、インテグレーションも進展している。同国内の鶏肉生産は、BRF社、世界最大級の食肉企業であるJBS社および農協系最大のパッカーであるAURORA社などの主要なパッカーがけん引している。

また、飼料コストが他国に比べて低く優位性があることに加え、鳥インフルエンザが今まで発生したことがなく安定した供給が見込まれることから世界最大の輸出国となっている。

① ブロイラーの需給動向

ア 生産動向

CONABによると、2018年のブロイラー用ひなふ化羽数は、61億羽（前年比2.3%減）、鶏肉生産量は、1328万9000トン（同2.4%減）となった（表4）。トウモロコシの不作により飼料価格が高水準で推移し生産コストが上昇したことなどの影響でひなふ化羽数が減少したことが要因とみられる。

表4 鶏肉需給の推移
(単位:百万羽、千トン、kg)

	2014	2015	2016	2017	2018
ひなふ化羽数	6,226	6,501	6,445	6,206	6,064
生産量	12,946	13,547	13,524	13,612	13,289
輸出量	3,995	4,225	4,307	4,232	4,018
1人当たり消費量	44.1	45.6	44.7	45.2	44.3

資料:CONAB

注:輸出量は生鮮鶏肉のほか、鶏肉調製品などを含む。

イ 輸出

SECEXによると、2018年の鶏肉輸出量は、382万2705トン（前年比3.1%減）と過去最高を記録した2016年から2年連続で減少した（表5）。これは、5月末に発生したトラック運転手のストライキの影響で上半期（1～6月）が、前年同期比10.6%減の171万9313トンとかなりの程度減少したため、下半期（7～12月）は、同4.1%増の210万3392トンと回復した。

最大の輸出先であるサウジアラビア向けは、新たなハ

ラル認証制度の影響で一部パッカーからの輸出が制限されたことから、48万6482トン（同17.4%減）と前年を大幅に下回った。また、第3位の日本向けは、日本国内在庫の増加や相場安の影響などにより38万9878トン（同10.9%減）と前年をかなりの程度下回った。一方、第2位の中国向けは、旺盛な需要を背景に43万8921トン（同12.2%増）と前年をかなり大きく上回った。

表5 国別鶏肉輸出(2018年)

区分	2018年			前年比(増減率)		
	輸出量 (トン)	輸出額 (千米ドル)	単価 (米ドル/トン)	輸出量	輸出額	単価
サウジアラビア	486,482	801,631	1,648	▲17.4	▲20.3	▲3.5
中国	438,921	799,156	1,821	▲12.2	▲5.1	▲6.4
日本	389,878	707,743	1,815	▲10.9	▲22.0	▲12.4
南アフリカ	331,641	254,820	768	▲3.6	▲0.2	▲3.5
アラブ首長国連邦	309,664	498,524	1,604	▲3.2	▲3.8	▲6.8
香港	212,116	334,279	1,576	▲15.2	▲15.0	0.2
クウェート	122,945	185,723	1,511	▲6.1	▲2.0	▲7.6
その他	1,531,138	2,293,721	1,498	▲1.0	▲4.4	▲5.3
合計	3,822,705	5,873,598	1,537	▲3.1	▲8.6	▲5.7

資料：SECEX

注1：HSコード0207.11、0207.12、0207.13、0207.14の合計。

注2：輸出量は製品重量ベース。

注3：出典が異なるため、表4と数値は異なる。

ウ 消費

CONABによると、2018年の1人当たり年間鶏肉消費量は、44.3キログラム（前年比2.0%減）となった（表4）。国内経済の失速に伴って、価格の高い牛肉からのシフトが進んだ結果、2014年、2015年と2年連続で増加していた。2016年は安価な鶏肉でさえも消費量が減少することとなった。2017年から経済が回復し、実質GDPはプラス成長が続いたが、2018年の需要が減少し消費量は前年を下回った。

② プロイラーの価格動向

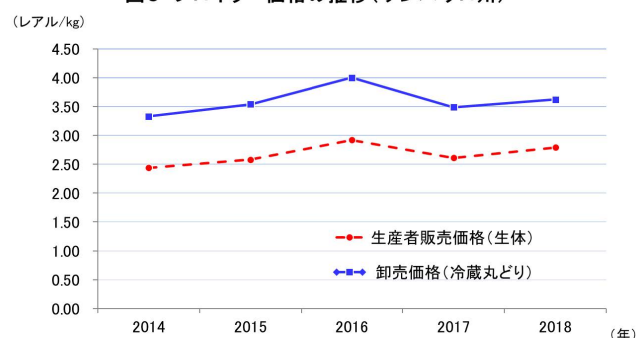
ア 生産者販売価格

CONABによると、2018年のプロイラーの生産者販売価格（サンパウロ州）は、1キログラム当たり2.79リアル（前年比6.9%高）となった（図5）。

イ 卸売価格

2018年の冷蔵丸どりの卸売価格（同）は、鶏肉の引き合いが強まり、同3.62リアル（同3.7%高）となった。

図5 プロイラー価格の推移(サンパウロ州)



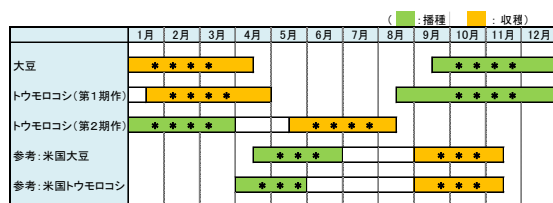
資料：CONAB

3 飼料穀物

ブラジルの2018/19年度（3月～翌2月）のトウモロコシの生産量は世界第3位、2018/19年度（10月～翌9月）の輸出量は第2位であった。

ブラジルのトウモロコシの作付けは、夏作（第1期作）と冬作（第2期作、第3期作）の年3回行われる（図6）。2018/19年度（10月～翌9月）の第1期作はリオグランデス州（南部）、第2期作はマットグロッソ州（中西部）、第3期作はセルジッペ州（北東部）がそれぞれ最大の生産地となった。パラナ州をはじめ伝統的に生産が盛んな南部3州のシェアは生産量ベースで25.3%を占めた。一方、近年、生産量を伸ばしている中西部（マットグロッソ州、マットグロッソドスル州、ゴイアス州、連邦直轄区）は、2014/15年度比6.1ポイント増の同52.8%となった。

図6 ブラジルの大豆・トウモロコシの生育カレンダー



資料: CONAB, 米国農務省 (USDA)
注: 主要生産州の播種および収穫期に基づいて作成。*印は、各月を前半と後半に分けて、最も盛んな時期を示している。

① 主要な政策

2018/19年度（会計年度7月～翌6月）は、MAPAが管轄する農業部門に対し、過去最大規模となった前年をわずかに上回る1911億リアル（前年度比1.4%増）が予算措置された（表6）。

この予算は、穀物生産の拡大と環境保全を柱に、食糧の安定的確保や生産者の生産能力・競争力強化などを目的とした融資に向けられる。

表6 農業部門予算の推移

（単位：億リアル）

農業年度	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19
総予算額	1,561	1,877	1,838	1,884	1,911
営農・販売融資	1,120	1,495	1,498	1,503	1,511
投資融資	441	382	340	381	400

資料: MAPA

営農・販売融資については、1511億リアル（同0.

5%増）の予算が措置された。営農融資は農畜産物の生産や加工に係る経費を対象としている。また、販売融資は連邦政府が定める農畜産物の最低価格を基礎として農畜産物を担保に行われる。

投資融資については、400億リアル（同5.0%増）の予算が措置された。同融資は、ほとんどの場合、MAPAが管理し、政府系のブラジル銀行や国立社会経済開発銀行（BNDES）が融資を行う。同融資には、温室効果ガスの削減を図り持続的農業を拡大する低炭素排出型農業プログラム（ABC、予算額20億リアル）が含まれ、有機農業プログラムへの適応、牧草地の回復、農業・畜産・森林を一体として推し進めるブラジル独自のインテグレーションシステムの導入などを奨励している。このほか、農業用トラクターおよび収穫機等の近代化プログラム（Moderfrota、同89億リアル）、倉庫建設・拡張プログラム（PCA、予算額21億リアル）などが盛り込まれている。

② 飼料穀物の需給動向

2018/19年度（10月～翌9月）のトウモロコシ生産量は、1億4万トン（前年度比24.0%増）と前年度を大幅に上回り、過去最高を記録した2016/17年度を上回ることとなった（表7）。

このうち、特に第2期作（第3期作を含む）は、大豆の収穫が順調に進んだことから、大豆収穫後に播種を行う第2期作トウモロコシの作付けが順調に進んだことや第2期作トウモロコシ生育中の天候に恵まれたことから単収が大幅に増加し、同38.0%増の7439万トンとなった。一方、第1期作は、同4.3%減の2565万トンと前年度をやや下回った。

また、同年度の輸出量は、前述のとおり生産量が大幅に増加したことから、4107万トン（同73.0%増）と大幅に増加した。国内では6496万トン（同9.8%増）が消費され、1091万トンが期末在庫として次年度に繰り越された。

表7 トウモロコシ需給の推移

(単位:千トン)

区分	2014/15	2015/16	2016/17	2017/18	2018/19
期首在庫	12,158	10,531	5,232	15,877	14,583
生産量	84,672	66,531	97,843	80,710	100,043
輸入量	315	3,336	953	901	1,596
消費量	56,483	56,319	57,337	59,162	64,958
輸出量	30,131	18,847	30,813	23,742	41,074
期末在庫	10,531	5,232	15,877	14,583	10,190

資料: CONAB

2018/19年度(10月~翌9月)の大豆の生産量は、過去最高となる前年度比0.4%増の1億1972万トンとなった。主産地で、良好な天候であったことなどが要因としてあげられる。

作付面積については同2.0%増の3587万ヘクタールとなった。

③ 飼料穀物の価格動向

2018年のトウモロコシ生産者価格(サンパウロ州)は、前年に過去最高の生産量を記録したことから、60キログラム当たり34.0リアル(前年比29.1%高)と下落した(表8)。

また、同年の大豆生産者価格も、過去最高の生産量を記録したことから、同72.6リアル(同15.4%高)となった(表9)。

表8 トウモロコシ生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分	2014	2015	2016	2017	2018
生産者販売価格	23.8	24.5	36.8	26.4	34.0

資料: CONAB

表9 大豆生産者価格の推移(サンパウロ州)

(単位:リアル/60kg)

区分	2014	2015	2016	2017	2018
生産者販売価格	60.5	62.5	72.8	62.9	72.6

資料: CONAB